

農学部・農学研究科

I 研究の水準 研究 9-2

II 質の向上度 研究 9-4

I 研究の水準（分析項目ごとの水準及び判断理由）

分析項目Ⅰ 研究活動の状況

〔判定〕 期待される水準を上回る

〔判断理由〕

観点1-1「研究活動の状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 第2期中期目標期間（平成22年度から平成27年度）の査読付きの原著論文は平均約600件、教員一人当たり平均3.1件となっている。
- 第1期中期目標期間（平成16年度から平成21年度）と第2期中期目標期間を比較すると、学会・業績賞は平均8.0件から平均9.5件へ、奨励賞は平均7.0件から平均24.5件へ増加している。
- 国際学会における招待・基調講演数は、第1期中期目標期間の平均40件程度から第2期中期目標期間の平均80件程度へ増加している。
- 第2期中期目標期間の科学研究費助成事業の採択状況は平均250件程度（7億円程度）となっている。

以上の状況等及び農学部・農学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

分析項目Ⅱ 研究成果の状況

〔判定〕 期待される水準を大きく上回る

〔判断理由〕

観点2-1「研究成果の状況」について、以下の点から「期待される水準を上回る」と判断した。

- 学術面では、「食料や生物材料の生産」、「作物生産や人類の生存の場としての環境や生態系」、「食料・食品・医薬品などについての生命科学」等の分野を中心に、優れた研究業績がある。また、国際特許出願に関連した論文は3件となっている。
- 卓越した研究業績として、園芸科学の「カキ属植物の雌雄性に関する研究」、水圏生命科学の「古細菌ウイルスの研究」、生態・環境の「森林生態系の機能と生物多様性の関係の研究」、応用微生物学の「腸内細菌における脂質代謝の解明と機能性食品開発への応用」がある。そのうち「カキ属植物の雌雄性に関する研究」については、トップジャーナルに掲載されている。また、「古細菌ウイルスの研究」については、ウイルス国際学会の発表で Best Poster Award を受賞している。

- 社会、経済、文化面では、応用研究として社会に貢献しており、国際特許を含む特許の出願の契機となった研究成果や、森林認証などの制度設計に影響を与えた研究成果がある。
- 特徴的な研究業績として、応用微生物学の「微生物による海洋バイオマスの利活用に関する研究」、食品科学の「構造－活性相関情報を活用した神経系に作用する食品由来ペプチドの探索および作用機構の解明」、経営・経済農学の「放射性物質の健康影響に関する双方向リスクコミュニケーションモデルの開発と実証に関する研究」がある。

(特筆すべき状況)

- 「食料や生物材料の生産」、「作物生産や人類の生存の場としての環境や生態系」、「食料・食品・医薬品などについての生命科学」等の分野を中心に、優れた研究業績がある。また、国際特許出願に関連した論文は3件となっている。
- 卓越した研究業績として、園芸科学の「カキ属植物の雌雄性に関する研究」、水圏生命科学の「古細菌ウイルスの研究」、生態・環境の「森林生態系の機能と生物多様性の関係の研究」、応用微生物学の「腸内細菌における脂質代謝の解明と機能性食品開発への応用」がある。そのうち「カキ属植物の雌雄性に関する研究」については、トップジャーナルに掲載されている。また、「古細菌ウイルスの研究」については、ウイルス国際学会の発表で **Best Poster Award** を受賞している。

以上の状況等及び農学部・農学研究科の目的・特徴を勘案の上、総合的に判定した。

なお、農学部・農学研究科の専任教員数は196名、提出された研究業績数は35件となっている。

学術面では、提出された研究業績33件（延べ66件）について判定した結果、「SS」は3割、「S」は7割となっている。

社会、経済、文化面では、提出された研究業績8件（延べ16件）について判定した結果、「S」は6割となっている。

(※判定の延べ件数とは、1件の研究業績に対して2名の評価者が判定した結果の件数の総和)

Ⅱ 質の向上度

1. 質の向上度

〔判定〕 高い質を維持している

〔判断理由〕

分析項目Ⅰ「研究活動の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 第2期中期目標期間の査読付きの原著論文は平均約 600 件、教員一人当たり平均 3.1 件となっている。
- 第1期中期目標期間と第2期中期目標期間を比較すると、学会・業績賞は平均 8.0 件から平均 9.5 件へ、奨励賞は平均 7.0 件から平均 24.5 件へ増加している。
- 国際学会における招待・基調講演数は、第1期中期目標期間の平均 40 件程度から第2期中期目標期間の平均 80 件程度へ増加している。

分析項目Ⅱ「研究成果の状況」における、質の向上の状況は以下のとおりである。

- 「食料や生物材料の生産」、「作物生産や人類の生存の場としての環境や生態系」、「食料・食品・医薬品などについての生命科学」等の分野を中心に、優れた研究業績がある。また、国際特許出願に関連した論文は3件となっている。

これらに加え、第1期中期目標期間の現況分析における研究水準の結果も勘案し、総合的に判定した。

2. 注目すべき質の向上

- 第1期中期目標期間と第2期中期目標期間を比較すると、学会・業績賞は平均 8.0 件から平均 9.5 件へ、奨励賞は平均 7.0 件から平均 24.5 件へ増加している。